

地域公共交通確保維持改善事業に関する自己評価について

令和3年度地域公共交通確保維持改善事業の自己評価について、中部運輸局へ別紙のとおり報告します。

◇事業評価について

中津川市では、国土交通省の「地域公共交通確保維持改善事業」を活用して、公共交通の確保維持に取り組んでいます。国の地域公共交通確保改善事業による支援を受けた事業については、毎年度、公共交通会議自らによる事業の実施状況の確認、自己評価を行い、その結果を地方運輸局に報告することとされています。

◇自己評価資料について

- ①自己評価（一次評価）作成様式 ・ ・ ・ 別添1、別添1－2
- ②第三者評価委員作成様式 ・ ・ ・ 中部様式

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和4年1月20日

協議会名： 中津川市公共交通会議

評価対象事業名： 地域内フィーダー系統確保維持国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
【補助対象となる事業者名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名、運行(航)区間、整備内容等を記載(陸上交通に係る確保維持事業において、車両減価償却費等及び公有民営方式車両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている場合、離島航路に係る確保維持事業において離島航路構造改革補助(調査検討の経費を除く。)を受けている場合は、その旨記載)】	【事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価結果をどのように生活交通確保維持改善計画に反映させた上で事業を実施したかを記載】	A・B・C評価 【計画に基づく事業が適切に実施されたかを記載。計画どおり実施されなかった場合には、理由等記載】	A・B・C評価 【計画に位置付けられた定量的な目標・効果が達成されたかを、目標ごとに記載。目標・効果が達成できなかった場合には、理由等を分析の上記載】	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果を生活交通確保維持改善計画にどのように反映させるか(方向性又は具体的な内容)を必ず記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載
北恵那交通株式会社	【福岡地区】 矢平線	【福岡地区】 ・地区バス検討委員会を開催。 ・現状課題の共有と住民向けアンケートを実施。 ・利用減となった原因を把握し、利用しやすい運行方式、路線となるように協議を行っている。	運行は計画どおり適切に実施された。 【計画運行回数】 206回 【実績運行回数】 206回 【運行割合】 100%	【定量的達成状況】 ・利用者数は基準年度(H28)以上とする。 目標/790人以上 実績/74人(達成率9.4%) 【考察・利用状況】 ・宮脇から買い物目的の方が時々乗車されるようになった。 ・ほっとサロンが休みなって以降、利用が少なくなった。	【課題】 ・福岡地区の路線開設当初の運行目的は、各地域からほっとサロン(健康増進施設・お風呂)への送迎が主目的だったが、コロナウイルス感染症防止対策による施設休業・縮小営業のため、バス利用者が激減した。 【対応】 ・福岡地区の路線の見直しについて、地区バス検討委員会で現状認識共有と課題の洗い出し、利用状況調査を実施した。
北恵那交通株式会社	【福岡地区】 若山線	【坂下地区】 ・地区バス検討委員会を開催。 ・利用者の要望の多かった道の駅、商店、病院を経由する路線に変更することを事業者や地域と協議を行っている。	運行は計画どおり適切に実施された。 【計画運行回数】 206回 【実績運行回数】 206回 【運行割合】 100%	【定量的達成状況】 ・利用者数は基準年度(H28)以上とする。 目標/263人以上 実績/14人(達成率5.3%) 【考察・利用状況】 ・月に通院利用者が1~2回程度の利用がある。	【利用状況調査】 ・回答者(755人)のほとんどはバスを利用していない。 ・目的(買い物、病院)のために利用しやすいになれば、今後利用したいとの意向があった。
北恵那交通株式会社	【福岡地区】 新田線	【坂本三坂線】 ・R3.4から運行開始(5月分から補助対象) 【地域公共交通網形成計画との関連】 ・地域公共交通網形成計画に基づいて事業を実施した。特に生活交通確保維持改善計画に関係する主な事業は次のとおり。 ①公共交通の運行を継続します(計画P.14参照)	運行は計画どおり適切に実施された。 【計画運行回数】 204回 【実績運行回数】 204回 【運行割合】 100%	【定量的達成状況】 ・利用者数は基準年度(H28)以上とする。 目標/905人以上 実績/331人(達成率36.6%) 【考察・利用状況】 ・よく利用していた方が親の介護のため転居され利用しなくなった。 ・プール利用者1名 お風呂利用者1名 その他2名の利用がある。	【方針】 ・利用者の減少は、コロナ感染症防止対策のため、ほっとサロンの休業・縮小営業したことが大きな要因であるが、これを契機に路線全体の見直しをすべきではないかという機運が高まった。 ・アンケート結果でも、ほっとサロンだけでなく、地区内の商店や病院にも使いたいというニーズが明らかになったので、2022年10月再編に向けて協議・

北恵那交通株式会社	【福岡地区】 本郷線	→補助対象系統を含め、市内9地区でコミュニティバスを運行(補助対象系統は4地区14系統) ②経路検索の充実に向けたデータ整備(計画 P.23~24参照) →既存利用者の利便性向上のため、インターネットでの経路検索を充実させる。 →中津川駅前バス待合所にオープンデータを活用したデジタルサイネージを設置。利用者への情報提供を充実させた。	A 運行は計画どおり適切に実施された。 【計画運行回数】 204回 【実績運行回数】 204回 【運行割合】 100%	B 【定量的達成状況】 ・利用者数は基準年度(H28)以上とする。 目標/767人以上 実績/16人(達成率2.1%) 【考察・利用状況】 ・本郷での利用者で亡くなった方と介護施設に入居された方がいるとのこと。	検討を行なっていく。
北恵那交通株式会社	【福岡地区】 上之平・下組線		A 運行は計画どおり適切に実施された。 【計画運行回数】 204回 【実績運行回数】 204回 【運行割合】 100%	B 【定量的達成状況】 ・利用者数は基準年度(H28)以上とする。 目標/544人以上 実績/41人(達成率7.5%) 【考察・利用状況】 ・コロナウイルス感染症防止対策のためサロンでゆっくり出来ないため利用されない方が多くなった。 ・通院利用者が1名ある。	
北恵那交通株式会社	【坂本・中津地区】 坂本三坂線		A 運行は計画どおり適切に実施された。補助対象期間はR3.5~R3.9分。 【計画運行回数】 610.5回 【実績運行回数】 610.5回 【運行割合】 100%	A 【定量的達成状況】 ・利用者数は基準年度(R1)の5か月分以上とする。 目標/4730人以上(5か月分) 実績/6326人(達成率133.7%) 【考察・利用状況】 ・順調に運行・利用されている。 ・通勤での利用も多い。	・東鉄バス中津川線(中津川駅前~美乃坂本駅前~恵那駅前)の廃止申し出を受け、代替手段としてR3,4から中津川市内区間で運行を開始した。 ・東鉄バス中津川線では、中津川市民病院の受診後に乗車できる便がなかったが、新路線では、受診後も利用ができる便を設定。廃止を契機に利便性を向上させた。 ・順調に運行・利用されており、今後も運行状況を継続的に把握し、更なるサービス向上に努める。
北恵那交通株式会社	【坂本・中津地区】 坂本三坂線(市民病院経由)		A 運行は計画どおり適切に実施された。補助対象期間はR3.5~R3.9分。 【計画運行回数】 101回 【実績運行回数】 101回 【運行割合】 100%	A 【定量的達成状況】 ・利用者数は基準年度(R1)の5か月分以上とする。 目標/863人以上(5か月分) 実績/890人(達成率103.1%) 【考察・利用状況】 ・順調に運行・利用されている。 ・病院への利用がやや少ない。	◆R3.5~R3.9(補助対象期間)の坂本三坂線運行実績 ・1運行当たり輸送人員10.1人/回 ◆H30~R1.9の東鉄バス中津川線運送実績(参考) ・1運行当たり輸送人員9.7人/回(恵那市内での乗降も含まれる)
株式会社サカガワ	【坂下地区】 上野線		A 運行は計画どおり適切に実施された。 【計画運行回数】 243回 【実績運行回数】 243回 【運行割合】 100%	B 【定量的達成状況】 ・利用者数は基準年度(H28)以上とする。 目標/724人以上 実績/1161人(達成率160.4%) 【考察・利用状況】 ・下小野沢からの中学生が2名利用している為、乗車人数が増えた。	・早期の便であるため、通勤での利用者の増減が、そのまま利用者の増減に直結する。 ・引き続きバスが利用されるよう推移を見守る。 ・地域からの要望を受け、道の駅、商店、病院近くに停車するようR4.10に運行ルートの変更することを、地域、運行事業者と共に検討している。

株式会社サカガワ	【坂下地区】 上野・外洞線
株式会社サカガワ	【坂下地区】 上野・外洞線(短縮ルート)
株式会社サカガワ	【坂下地区】 上野・合郷線
株式会社サカガワ	【坂下地区】 外洞線(上り)

A	<p>運行は計画どおり適切に実施された。</p> <p>【計画運行回数】 243回</p> <p>【実績運行回数】 243回</p> <p>【運行割合】 100%</p>	B	<p>【定量的達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者数は基準年度(H28)以上とする。 目標/1740人以上 実績/1656人(達成率95.2%) <p>【考察・利用状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・例年通りとなって下校の児童・生徒の利用が多い。 ・一般の方の利用はまばらである。特に最終便で乗車人数無しの便が目立ってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主に帰宅する小中学生のスクールバスとして利用されている。 ・児童生徒の利用が多い系統であり、引き続きバスが利用されるよう推移を見守る。
A	<p>運行は計画どおり適切に実施された。</p> <p>【計画運行回数】 121.5回</p> <p>【実績運行回数】 121.5回</p> <p>【運行割合】 100%</p>	A	<p>【定量的達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者数は基準年度(H28)以上とする。 目標/728人以上 実績/1989人(達成率273.2%) <p>【考察・利用状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・例年通りとなり下校の児童・生徒様の利用が多い、特に週初め月曜日は一斉下校の為すごく多い。 ・他の利用される方はほとんどいない。 	
A	<p>運行は計画どおり適切に実施された。</p> <p>【計画運行回数】 243回</p> <p>【実績運行回数】 243回</p> <p>【運行割合】 100%</p>	A	<p>【定量的達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者数は基準年度(H28)以上とする。 目標/312人以上 実績/455人(達成率145.8%) <p>【考察・利用状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・例年通りの利用状況となっている。 ・お客様が用事でお出かけの際は、この便をうまく活用されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目標値を大きく上回っている系統であり、引き続きバスが利用されるよう推移を見守る。 ・地域からの要望を受け、道の駅、商店、病院近くに停車するようR4.10に運行ルートの変更することを、地域、運行事業者と共に検討している。
A	<p>運行は計画どおり適切に実施された。</p> <p>【計画運行回数】 243回</p> <p>【実績運行回数】 243回</p> <p>【運行割合】 100%</p>	B	<p>【定量的達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者数は基準年度(H28)以上とする。 目標/2112人以上 実績/1501人(達成率71.1%) <p>【考察・利用状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1便目は昨年度と比較し登校に利用される児童生徒が減り、減少傾向にある。 ・2便目は乗車無しの便がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・沿線に住む小中学生の数により、毎年利用人数が変動する路線である。引き続きバスが利用されるよう推移を見守る。 ・地域からの要望を受け、道の駅、商店、病院近くに停車するようR4.10に運行ルートの変更することを、地域、運行事業者と共に検討している。

株式会社サカガワ	【坂下地区】 外洞線(下り)	A 運行は計画どおり適切に実施された。 【計画運行回数】 121.5回 【実績運行回数】 121.5回 【運行割合】 100%	B 【定量的達成状況】 ・利用者数は基準年度(H28)以上とする。 目標/300人以上 実績/261人(達成率87.0%) 【考察・利用状況】 ・昨年度と思うと若干であるが、乗車する方が増えた。	・沿線に住む小中学生の数により、毎年利用人数が変動する路線である。 ・比較的利用が多い系統であり、引き続きバスが利用されるよう推移を見守る。 ・地域からの要望を受け、道の駅、商店、病院近くに停車するようR4.10に運行ルートの変更することを、地域、運行事業者と共に検討している。
株式会社サカガワ	【坂下地区】 西方寺・握・高部線	A 運行は計画どおり適切に実施された。 【計画運行回数】 486回 【実績運行回数】 486回 【運行割合】 100%	B 【定量的達成状況】 ・利用者数は基準年度(H28)以上とする。 目標/908人以上 実績/240人(達成率26.4%) 【考察・利用状況】 ・利用区間が坂下駅～坂下診療所で行きかえり利用されるのが多く、沿線にお住まいの方の利用が減少している。 ・乗車無しの便も若干ある。	・タクシー利用が多い時間帯に運行する便であることから、バス利用もできることを周知する必要があり、今後も推移を見守る。 ・地域からの要望を受け、道の駅、商店、病院近くに停車するようR4.10に運行ルートの変更することを、地域、運行事業者と共に検討している。

中部様式

令和3年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価
概要（全体）

中津川市公共交通会議

平成20年6月4日設置

平成30年3月19日 中津川市地域公共交通網形成計画策定
(計画期間：平成30年4月～令和5年3月)

令和2年6月26日 フィーダー系統 確保維持計画策定

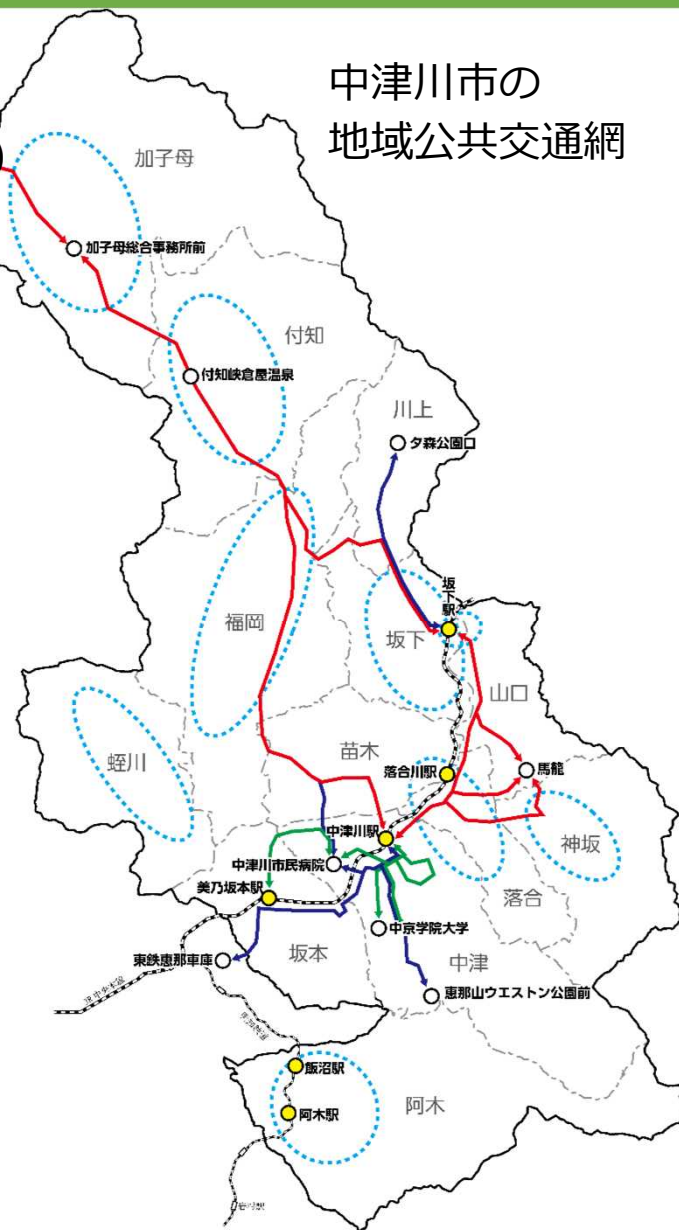
直近の二次評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
<p>民間路線バスの一部路線廃止の申し出を受け、速やかに代替手段の方策を関係者で協議、より良い公共交通を作る契機と捉えて、これまでの関係者間で構築された緊密なつながりにより、令和2年4月からの再編計画を策定したことを評価します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 東鉄バス中津川線廃止代替路線（坂本三坂線） <ul style="list-style-type: none"> ・ 令和3年4月から運行開始しました。 ■ 東鉄バス蛭川線廃止代替路線（蛭川地区コミバス） <ul style="list-style-type: none"> ・ 令和3年4月から運行開始しました。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 坂本三坂線 <ul style="list-style-type: none"> ・ 順調に運行・利用されており、今後も運行状況を注視します。 ■ 蛭川地区コミバス <ul style="list-style-type: none"> ・ 高校生の帰りの運行時間を利用者と運行事業者の意見を聞き変更予定です。
<p>今回の代替再編が利用者利便を損なっていないか継続的に状況を把握し、更なるサービス向上に努めること、また、福岡地区等の利用が見込めない路線の効率化について、関係者と協議を進め、地域から理解が得られる見直しに結びつくことを期待します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 廃止代替路線 <ul style="list-style-type: none"> ・ 事業者と共に、随時移動需要を把握しています。 ■ 福岡地区コミバス <ul style="list-style-type: none"> ・ バス検討委員会を開催。現状課題の共有と住民向けアンケートを実施しました。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 福岡地区コミバス <ul style="list-style-type: none"> ・ 移動需要とバス利用目的を明確にした上で、最適な運行方法を検討し、令和4年10月改編に向け地区関係者と協議を継続中です。

中津川市の地域公共交通を取り巻く課題

- ①利用者の減少で地域公共交通網の維持が困難に
 - ✓ 人口減少・高齢化（国調△2,313人、高齢化率32.5%）
 - ✓ 東濃鉄道(株)が市内から撤退
 - ✓ コロナ感染症拡大により移動需要が減少
- ②誰もがわかりやすい公共交通となっていない
 - ✓ バスを利用する外国人旅行者に対する案内不足
 - ✓ バスによるおでかけ情報発信が不十分
- ③運転手不足で地域公共交通網の維持が困難に
 - ✓ 運転手高齢化、現役世代引退後に労働力不足の恐れ

中津川市地域公共交通網形成計画（2022.1改定予定）

- 基本方針
 - ✓ 住んでよかった、住んでみたい街に
- 目標
 - ✓ 住み続けられる街に
～定住を支える公共交通
 - ✓ 来てよかった、また来たい街に
～観光と利用促進
 - ✓ 運転手不足解消に向けて
～誰もが活躍する街に
- 期間
 - ✓ 2018年度～2022年度までの5年間



目指す姿とは 利用者確保し地域公共交通網を維持。公共交通で安心して移動できる。そして…
いつまでも定住できる街に！住みたくなる街に！

中津川に住もう！

■ 地域公共交通網形成計画に基づいて実施する20事業

目標	計画で掲げる主な事業
①定住を支える公共交通	高校生バス通学支援、パーク&ライド、地域公共交通の運行継続、明知鉄道 TM の運行支援、安全安心なバス停環境の整備 など
②観光と利用促進	公共交通を使った市内観光の推進、インターネットによる経路検索の充実、クリスマスバス など
③運転手不足の解消	運転手採用相談会 など

■ 2020-2021年度に実施した主な取り組み

★東鉄バス廃止代替手段の構築

中津川線対応 廃止を契機により良い路線に！

- 市内区間を北恵那交通(株)に委託し、**運行を継続**
- 市民病院受診後に利用できる便を新設



効果 1 運行当たり輸送人員9.7→10.1人/回

蛭川線対応 高校生がバスで通える街に！

- 東鉄バス廃止路線とコミバスを合わせた再編を実施
 - ✓小学生通学便の新設
 - ✓高校生通学便の新設
 - ✓コミバスはデマンド化



効果 小学生17人、高校生7人が定期利用

★わかりやすく利用しやすい公共交通へ



内容

- 系統記号、路線カラーの導入
- バスLED表示改善
- のりば案内表示改善

効果

- コロナ禍終息後を見据え環境整備
- 視認性と利便性向上

GTFS(経路検索結果)と行き先表示を統一

バスLED改善前

福岡経由
中津川駅前

バスLED改善後

T 福岡総合事務所前経由
中津川駅前

↑ 系統記号 ↑ ピクトグラム ↑ 行き先・経路地 ↑ 系統カラー

中津川に「住もう！」

■ 地域公共交通網形成計画における評価指標の考え方

- ✓ 網形成計画に基づく各種事業実施を通じ、
 - ①住民や来訪者による公共交通利用者を確保する
 - ②いつまでも中津川市に住み続けられる（高校生が自宅から通うことができる）
 ことを定量的に示す評価指標を設定している。
- ✓ 地域公共交通確保維持改善計画における目標値は、網形成計画の評価指標との整合性を図るため、補助対象系統ごとの利用者数を基準年度以上とした。
- ✓ 自己評価は2022年1月20日に開催した中津川市公共交通会議で承認を受けた。

■ 地域公共交通網形成計画における定量的な評価指標

定量的な評価指標		①住民1人あたりの公共交通年間利用回数	②北恵那バス路線沿線地区内の高校生バス通学割合
基準年度	2016年度	8.6回/人	30.6%
目標年度	2022年度	8.6回/人以上	30.6%以上
実績【評価】	2020年度	7.5回/人【未達成】	26.6%【未達成】
	2021年度	6.7回/人【未達成】	25.3%【未達成】
考察		<ul style="list-style-type: none"> • 新型コロナウイルスの影響により、公共交通利用者が減少。 • 緊急事態宣言解除後は、馬籠線を利用する日本人観光客は戻りつつある。 	<ul style="list-style-type: none"> • 付知・加子母始発便は、市街地に近づくほど乗客が多くなるため、福岡・苗木地区の学生にはバス通学が敬遠されている。

■ 目標達成状況についての考察（路線別の事業評価概要）

- 系統ごとに経年比較し、利用状況を把握
- 網形成計画と整合性を図るため、目標値は系統ごとの利用者数を基準年度以上とする

区分	(上段) 利用人数、(下段) 達成率			主な考察・備考
	2016(基準)	2020(実績)	2021(実績)	
民間路線バス (補助系統)	206,241 -	257,168 👑 124.9%	253,025 👑 122.7%	<ul style="list-style-type: none"> ○ 外国人労働者の定期的な通勤利用がある。 ○ 学生ホリデー切符の発売で、中津川市街地から福岡・加子母方面への学生利用が増加した。 ○ 緊急事態宣言解除後は、馬籠線を利用する日本人観光客は戻りつつある。
民間路線バス (非補助系統)	320,260 -	194,992 60.9%	154,995 48.4%	<ul style="list-style-type: none"> × 新型コロナウイルスの影響により、定期券利用者や観光客利用者が減少した。 × 中京学院大学行きのバスで、増車対応する機会が減っている。
自主運行バス (廃止代替バス)	54,181 -	41,747 77.1%	49,621 📈 91.6%	<ul style="list-style-type: none"> ○ 坂本三坂線（東鉄バス中津川線廃止代替路線）が2021年4月から運行開始し、利用者は堅調に推移している。 ○ 蛭川地区コミュニティバス（東鉄バス蛭川線廃止代替路線）に、高校生と小学生の通学便を新設したことで新たな需要を生み出し、利用者が増加した。
自主運行バス (コミバス)	23,275 -	17,705 76.1%	19,623 📈 84.3%	<ul style="list-style-type: none"> ○ 小学生が帰宅時に利用できるようになったことで利用者が増加した。（阿木地区） × 頻繁に利用していた方が利用しなくなる。（利用者の高齢化。認知症、施設へ入所、死亡など）
明知鉄道乗車数 (阿木・飯沼駅)	85,680 -	68,169 79.6%	35,352 41.3%	<ul style="list-style-type: none"> × 鉄道輸送人員は、コロナ禍前の2018年度と比較して37.5%減少した。 × コロナ感染防止対策として平日を土休日ダイヤで運行し、土休日は8往復減便して運行した。
合計	689,637 -	579,781 84.1%	512,616 74.3%	<p>【参考】住民基本台帳人口（9月末）</p> <p>2016（基準）80,399人 2020（実績）77,479人（▲3.6%） 2021（実績）76,553人（▲4.9%）</p>

コロナ禍終息後を見据え、魅力ある地域公共交通を創る 地域資源を活用、移動と目的をセットに

課題

- コロナ禍により、学校休業、外出控えなど人々の生活意識や行動に変化が起きました。
- 少子高齢化・人口減少と相重なって、過去に例を見ない規模で**移動需要が減少**しました。

対応

- 既存路線バスと地域観光資源を連携させた付加価値の高い観光商品を開発し、移動と目的をセットにした「**稼げる路線**」を創ります。
- この地を訪れなければ**経験**ができない地域ならではの要素を組み合わせ、**公共交通利用増**だけでなく**地域への経済効果**としても還元ができる商品を検討します。

コロナ禍で利用激減、利用目的を明確に 福岡地区コミュニティバスの再編を地域と検討

課題

- 福岡地区コミバス（フィーダー系統）は、健康増進施設（お風呂）利用者が頻繁に利用していましたが、コロナ禍による施設休業・縮小営業に伴い、**バス利用者が激減**しました。

対応

- バス検討委員会で現状認識共有と課題の洗い出し、利用状況調査を実施しました。
- 健康増進施設だけでなく、買い物・通院にも利用しやすくなるように、**2022年10月再編**に向けて**協議**を行なっています。

経験

- グリーンスローモビリティ実証運行では、観光路線の乗客の8割から満足との評価を得ました。
- 魅力ある路線づくりには、**この場でしか体験できない経験や景色**を組み合わせることが重要であることがわかりました。



順位	項目	満足度
1	ガイドの案内(N=36)	4.80
2	落合の石畳(N=33)	4.75
3	車窓の景色(N=36)	4.71
4	落合宿本陣(N=36)	4.66
5	低速電動バス(N=36)	4.60
6	馬籠宿(N=30)	4.59

観光路線の満足度

調査

- 回答者(n=755)は、ほぼバスを利用していない。
- 今後、**買い物や通院に利用したい**意向はある。

コミバスを利用していますか？



運転ができなくなったら移動手段はどうしますか？

